

第9講座・13回 — 特別オープン講座 —

伊豆国の成立と神々

講師 原 秀三郎 氏

静岡大学名誉教授 文学博士

講師略歴 昭和 9年 下田市に生まれる。静岡県立下田北高等学校卒
昭和33年 静岡大学文理学部史学専攻卒業
昭和40年 京都大学大学院文学研究科博士課程国史学専攻修了。
奈良国立文化財研究所員、静岡大学人文学部教授、千葉大学文学部教授歴任
現在 静岡大学名誉教授。京都大学文学博士
講師著書 「日本古代国家の起源と邪馬台国—田中史学と新古典主義—」国民会館 2004年
「地域と王権の古代史学」「遠江 常山古墳」総括編集「静岡県史」 他多数

9 特別オープン講座 伊豆国の成立と神々

《 講演要旨 》

これまで伊豆国の成立は、天武天皇九年（680）に、駿河の二郡を別けて伊豆国とした（扶桑略記）ことに始まるとされ、二郡とは賀茂・田方のことだろう、と考えられてきました。

ところが近年、飛鳥の石神遺跡から、鴨評（かもこのおり）、売羅評（めらのこのおり）と書かれた木簡が出土し、二郡とは鴨は賀茂、売羅は妻良として、いずれも南伊豆町にその地名が残る二つの評のことで、伊豆国は、まず天武朝に南伊豆と島々に二つの評からなる伊豆国が成立し、ついで大宝元年（701）の国郡制の施行にともない、賀茂、那賀、田方の三郡からなる伊豆国となった、と考えられるようになったのです。

そして、大宝元年以前は、伊豆の島と呼ばれる「島の国」だったらしいことも、また明らかになってきました。

今回の講演では、この伊豆国の成立過程を、大和王権と伊勢以東の東方の国々とのかかわりの中で、伊豆の占める位置を中心に考え、また、「伊豆は神祇の国」ともいわれてきたその神々や風土の特質と、そこに活きた人々の人情や性格、いわゆる伊豆気質についてもとりあげてみたいと思います。

日 時 平成23年1月15日（土）

会 場 伊東市役所 8階大会議室

時 間 13：30～16：30 （予定）

参加費 300円

※ オープン講座です。どなたでも参加できます。
興味のある方は是非ご出席ください。

伊東市健脳健身推進事業助成事業

後援 伊東市・伊東市教育委員会・伊豆新聞本社・シーブイエー・伊豆急ケーブルTV

主催 NPO法人まちこん伊東

問い合わせ NPO法人まちこん伊東事務局 田畑みなお FAX0557-51-0149 携帯 090-2777-9345